JAPANESE

ECLIPSE®

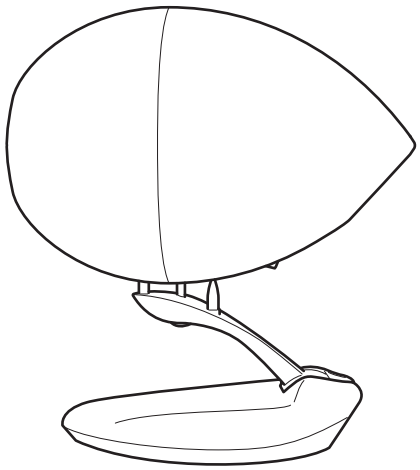
TD508MK3
TD510MK2

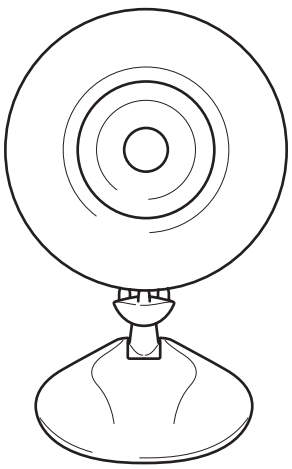
説明書品番：090003-32270700

取扱説明書

●このたびは、本製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
●取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
●指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
●天井や壁にスピーカを取り付けるには、専門技術と経験が必要です。必ず専門業者へ取り付けを依頼してください。
●スピーカの取り付け作業は、必ず２人以上で行ってください。

「取扱説明書」を読んだあとは、保証書とともにいつでも見られるところに大切に保管してください。





FUJITSU TEN

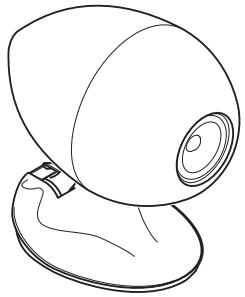
JAPANESE

もくじ

取り付ける前に	構成部品	2
	安全に正しくお使いいただくために	3
	使用上のご注意	3
取り付けについて	スピーカ設置例	4
	各部の名称と接続	5
	スピーカ角度の微調整	6
	保護ネットの取付方法	7
	台、床面等で使用する場合	8
	天井や壁に取り付ける場合	11
	お手入れ／仕様	22
	保証とアフターサービス	23
	ブラケット取付位置決め用型紙	25

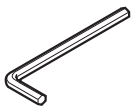
構成部品

作業前に構成部品が揃っているか確認してください。

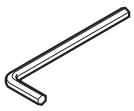


❶スピーカ ×1

❷保護ネット ×1



❸六角レンチ(大) ×1

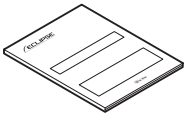


❹六角レンチ(小) ×1

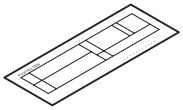
TD510MK2のみ同梱

❺キャップ ×5

❻ロゴシール ×1



❼取扱説明書 ×1



❽保証書 ×1

＊この商品は、タイムドメイン理論に基づくスピーカです。

《タイムドメイン理論とは?》

タイムドメイン理論とは、音の波形が出てから消えるまでの、時間的な変化を正しく再現し、再生される音の波形を限りなく原音に忠実に近づけるために生まれた理論です。

この理論によって時間領域(タイムドメイン)での再現性を向上させたタイムドメインオーディオシステムは、音の定位や演奏家が音楽に込めた繊細微妙な表現が、より忠実に再生できるようになりました。

タイムドメイン理論は、㈱タイムドメインの由井啓之社長が提唱するオーディオ理論です。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

アドバイス	本製品の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと 知っておくと便利なこと、知っておいていただきたいこと

⚠ 警告

- この製品のキャビネットは、開けないでください。
  感電やケガの原因となります。内部の点検・調整・修理は、当社窓口にご相談ください。
  また、この製品を改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- 風呂場や雨にあたる所、湿気の多い所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。この製品の上や近くに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。内部に水や異物が入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

- 本製品は、水平でしっかりとした場所に設置してください。不安定な場所に設置すると転倒してケガの原因となることがあります。
- 本製品に寄りかかったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたりこわれたりしてケガの原因となることがあります。

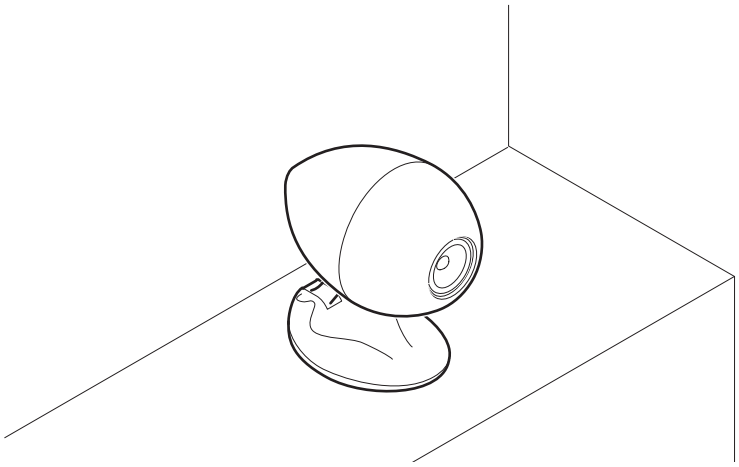
使用上のご注意

- 接続機器の電源を入れる前、または入力切換を行う前には、必ず音量を最小にしてください。
  突然の大出力により、接続されたスピーカを破損させる原因となります。
- 楽しい音楽も場所によっては気になるものです。ご近所のご迷惑にならないよう、適度な音量でお楽しみください。
  特に、夜間などは小さな音量でも周囲にはよく通るものです。
  お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
- スピーカは、必ず接続機器の電源を切った状態で接続してください。
- 本製品を倒さないように注意してください。
- 本製品の汚れは、中性洗剤を柔らかい布に含ませて軽く拭いてください。
  シンナー、ベンジンなどは使わないでください。

スピーカ設置例

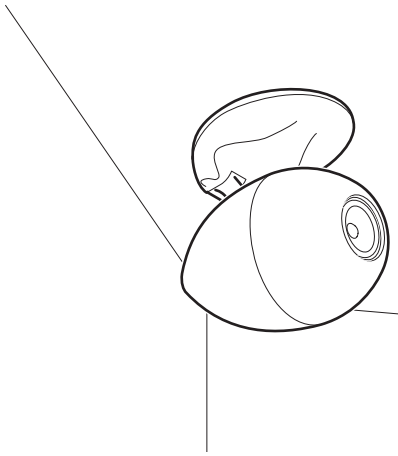
台、床面等で使用する場合

●スピーカ角度の微調整をする。➡P.6を参照。
●スピーカアームの角度調整をする。➡P.8を参照。



天井に取り付ける場合

●取り付け概要 ➡P.11を参照。
●スピーカの取り付け角度を決める。➡P.12～13を参照。
●スピーカを天井に取り付ける。➡P.15～21を参照。
●スピーカ角度の微調整をする。➡P.6を参照。



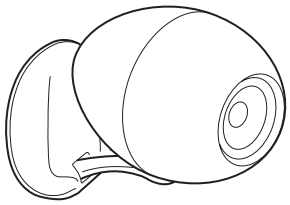
アドバイス

取り付けには、別売のブラケット(CB1)が必要です。

壁に取り付ける場合

TD508MK3のみ

●取り付け概要 ➡P.11を参照。
●スピーカの取り付け角度を決める。➡P.14を参照。
●スピーカを壁に取り付ける。➡P.15～21を参照。
●スピーカ角度の微調整をする。➡P.6を参照。



⚠注意

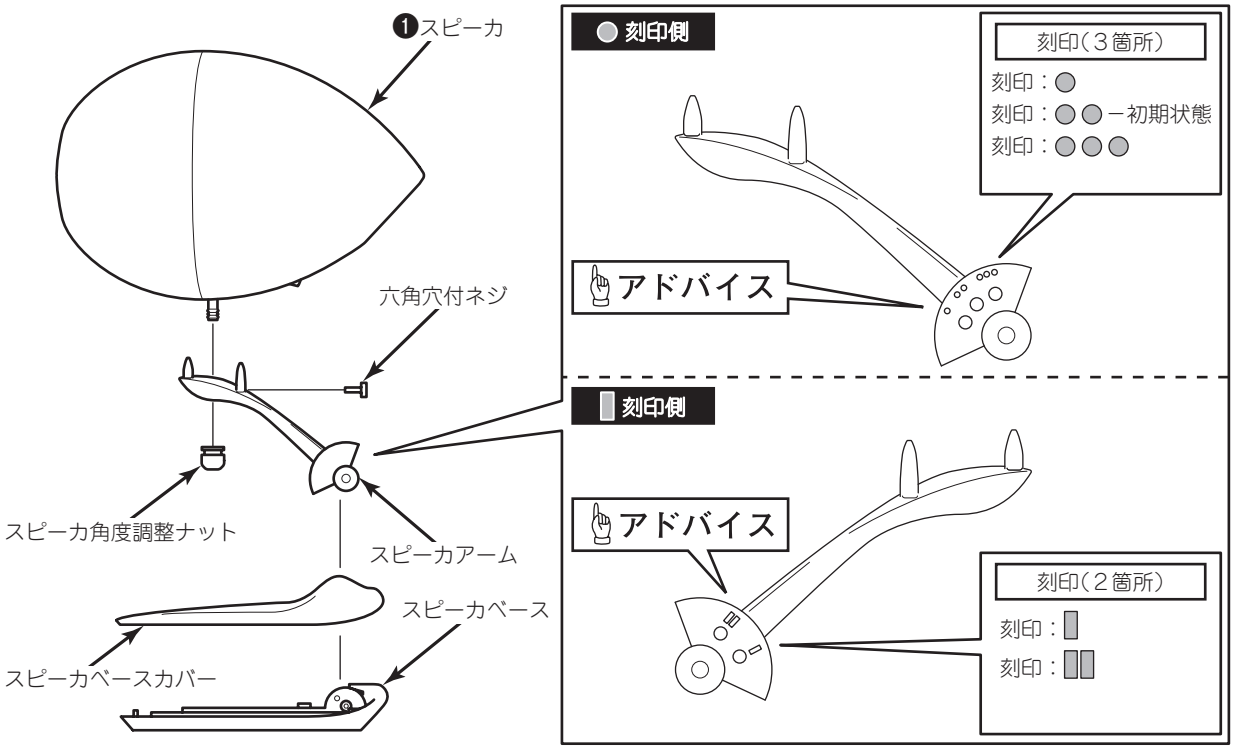
壁に取り付け可能なのはTD508MK3だけです。
TD510MK2は壁に取り付けることはできません。

アドバイス

取り付けには、別売のブラケット(CB1)が必要です。

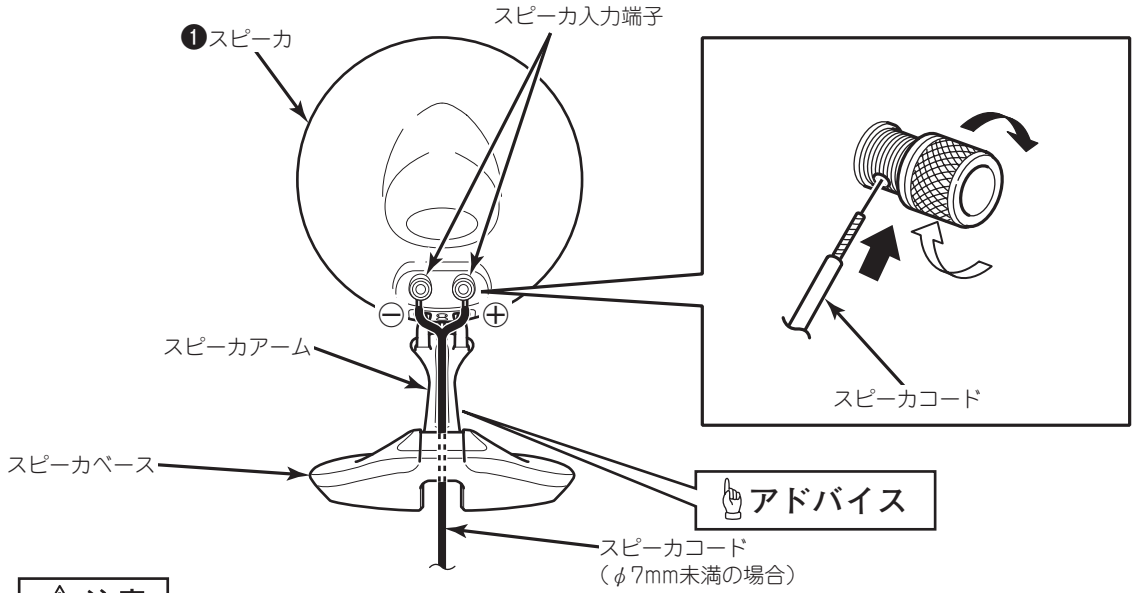
各部の名称と接続

※本取扱説明書に記載されているイラストはTD508MK3を示していますが、各機能はTD510MK2と共通になっています。



アドバイス

スピーカアームの刻印は、スピーカアームの角度を調整する際の目印です。



⚠注意

接続の際には、ショートの原因となりますのでスピーカコードの裸線部分が隣の端子に接触しないよう、確実に固定してください。

アドバイス

■ **スピーカコードがφ7mm未満の場合**
スピーカコードをスピーカベースおよびスピーカアームの配線穴に通すと見映えがよくなります。

■ **スピーカコードがφ7mm以上の場合**
スピーカコードがスピーカアームに通らないため外側を配線してください。

スピーカ角度の微調整

1 床にやわらかい布などを敷く。

⚠注意

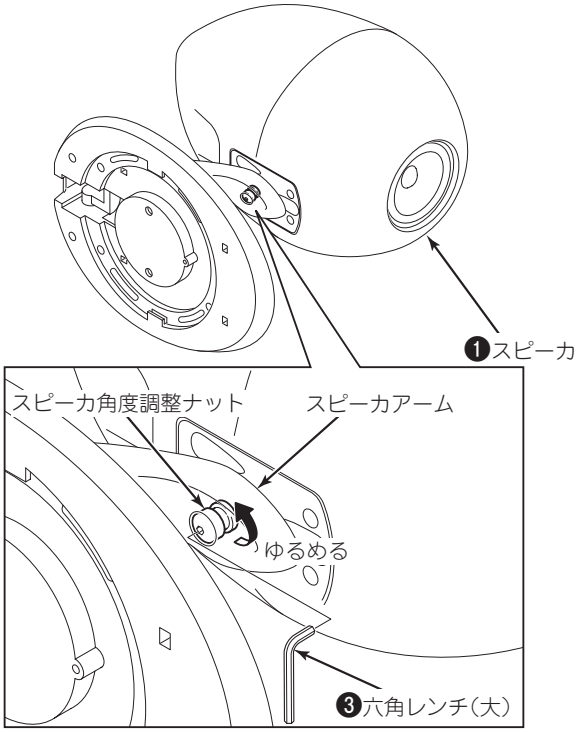
スピーカを傷つけないように、やわらかい布などを敷いた上で作業を行ってください。

2 スピーカを寝かせる。

3 スピーカアーム裏側のスピーカ角度調整ナットをゆるめる。

アドバイス

図は台、床面等で使用する場合を示していますが、天井や壁で使用する場合も同様に作業をおこなってください。



4 スピーカを立てる。

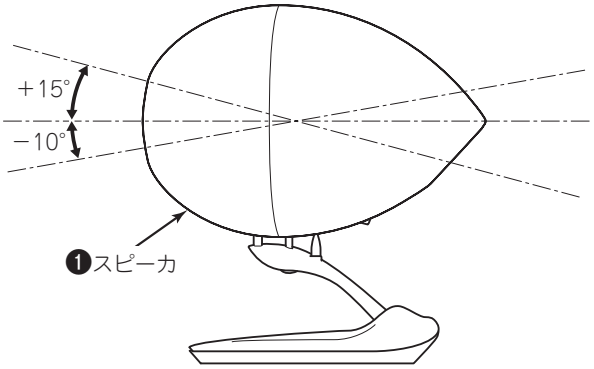
5 スピーカをお好みの角度に調整する。

⚠注意

角度調整する際は、スピーカが転倒しないように注意してください。

アドバイス

スピーカの角度は、＋15°～－10°の範囲で調整することができます。



6 スピーカ角度調整ナットをしめつける。

⚠注意

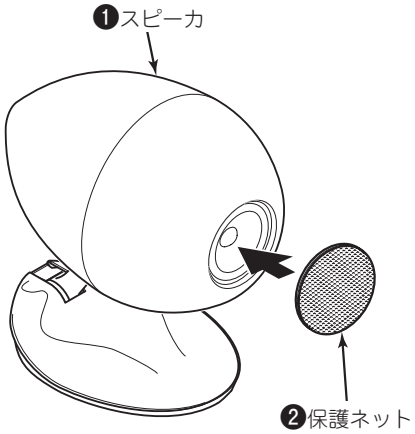
スピーカ角度調整ナットは、確実にしめつけてください。

保護ネットの取付方法

1 図のように保護ネットを取り付ける。

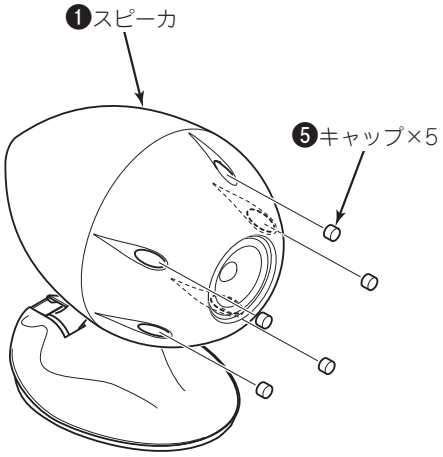
アドバイス

- ●保護ネットは、スピーカを使用しない時や、お客様のお好みにより取り付けてください。
- ●保護ネットを取り付ける際は、保護ネットの端を押して取り付けてください。



■ TD510MK2の場合

2 スピーカの穴にキャップを取り付ける。



台、床面等で使用する場合

－スピーカアームの角度調整について－

アドバイス

●スピーカ角度を標準位置（梱包状態）で使用する場合は、角度調整をする必要はありません。
●スピーカアームの角度調整をすることでスピーカ角度を標準状態（梱包状態）より＋15°上向きにできます。（スピーカ角度の微調整（➡P.6を参照）を含むことにより、最大＋30°まで調整可能）

1 床にやわらかい布などを敷く。

⚠注意

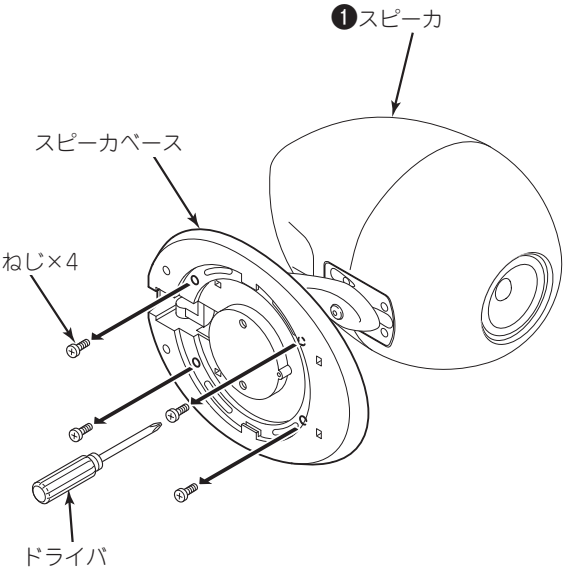
スピーカを傷つけないように、やわらかい布などを敷いた上で作業を行ってください。

2 スピーカを寝かせる。

3 スピーカベース底面のねじを取り外す。

アドバイス

取り外したねじは、再使用するので紛失しないように注意してください。



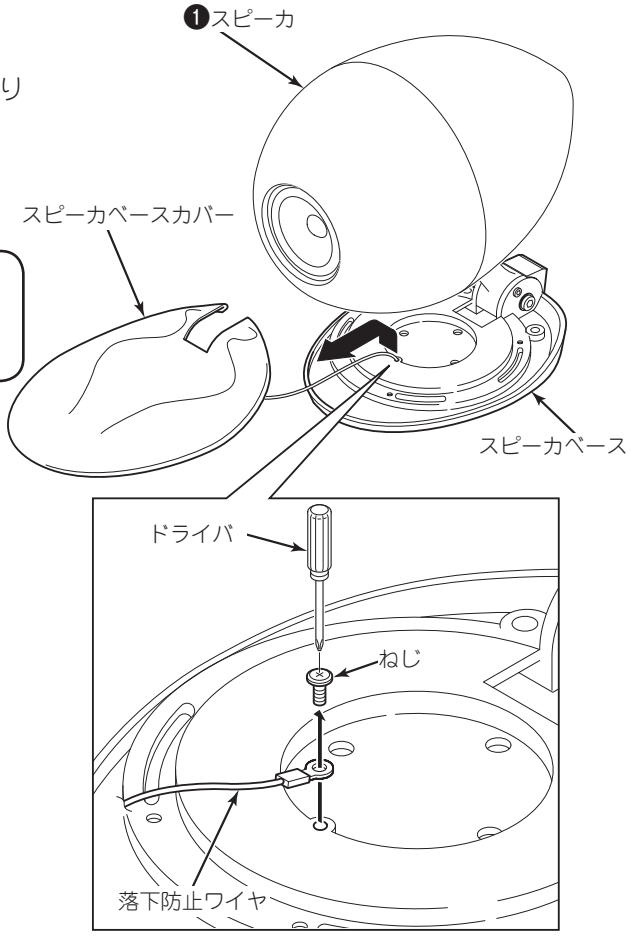
4 スピーカを立てる。

5 スピーカベースからスピーカベースカバーを取り外す。

6 スピーカベースから落下防止ワイヤを取り外す。

アドバイス

取り外したねじは、再使用するので紛失しないように注意してください。



7 床にやわらかい布などを敷く。

⚠注意

スピーカを傷つけないように、やわらかい布などを敷いた上で作業を行ってください。

8 スピーカを寝かせる。

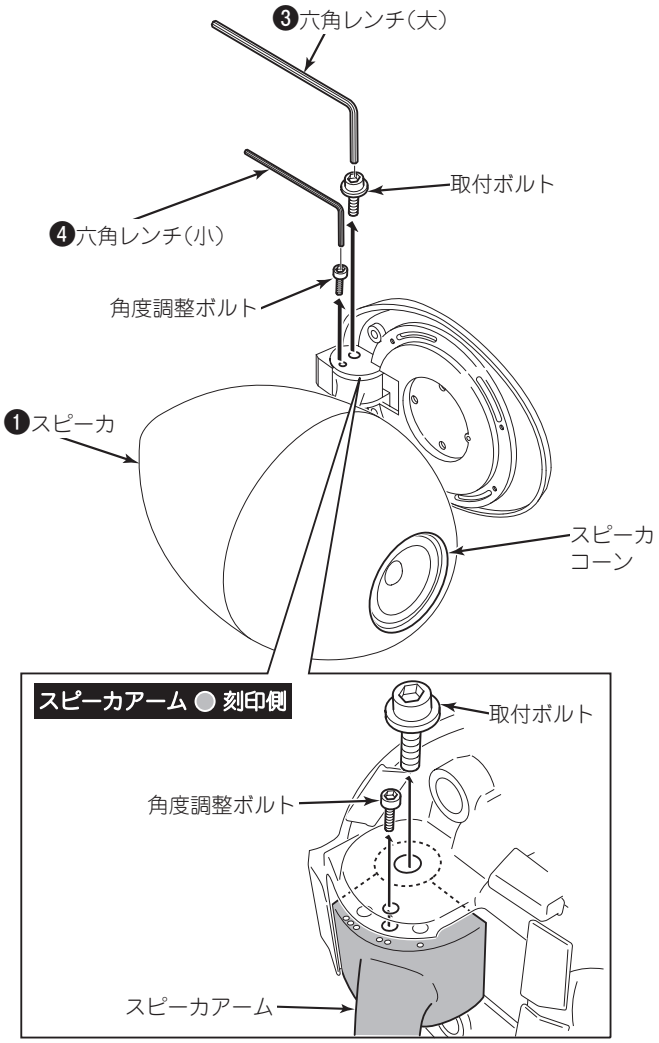
9 スピーカアーム ● 刻印側の取付ボルトおよび角度調整ボルトを取り外す。

⚠注意

- ●取付ボルトおよび角度調整ボルトを取り外すと、スピーカがスピーカコーン側へ倒れる恐れがありますので注意してください。
- ●スピーカアームの可動部で手や指をはさまないように注意してください。

アドバイス

スピーカアームの刻印：●、●●● の取付穴は使用しません。



10 スピーカアーム ▮ 刻印側に取付ボルトを取り付ける。

⚠注意

- ●取付ボルトおよび角度調整ボルトを取り外すと、スピーカがスピーカコーン側へ倒れる恐れがありますので注意してください。
- ●スピーカアームの可動部で手や指をはさまないように注意してください。

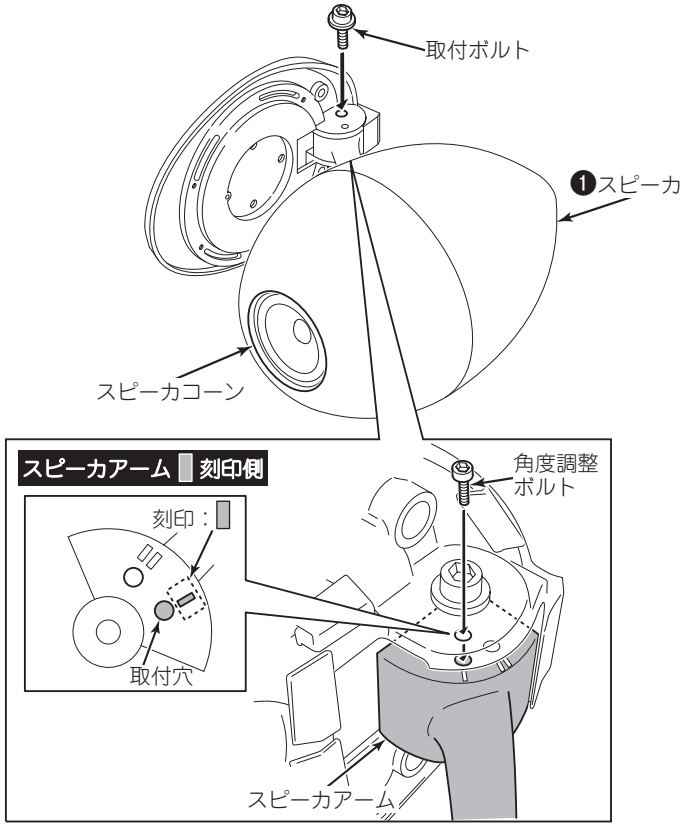
アドバイス

角度調整ボルトは、スピーカアームの角度を調整した後で取り付けてください。

11 スピーカアームの角度を刻印：▮ の位置に合わせ、角度調整ボルトをしめ付ける。

アドバイス

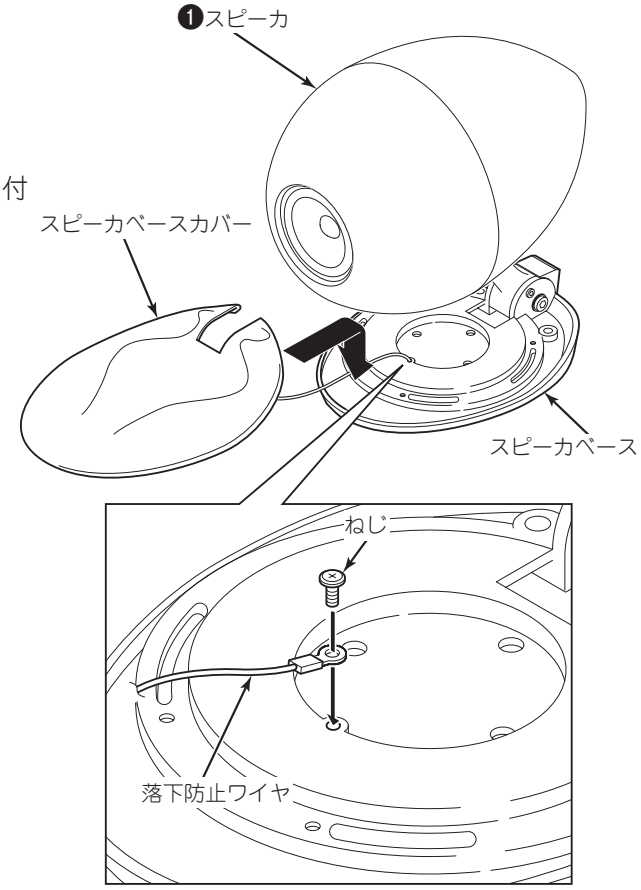
スピーカアームの刻印：▮▮ の取付穴は使用しません。



12 スピーカを立てる。

13 スピーカベースに落下防止ワイヤを取り付ける。

14 スピーカベースにスピーカベースカバーを取り付ける。



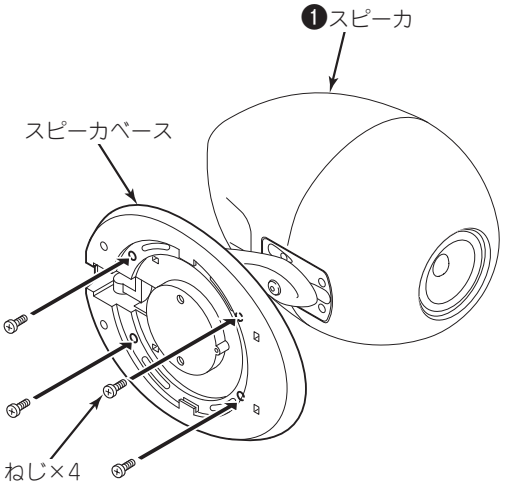
15 床にやわらかい布などを敷く。

⚠注意

スピーカを傷つけないように、やわらかい布などを敷いた上で作業を行ってください。

16 スピーカを寝かせる。

17 スピーカベース底面のねじを取り付ける。

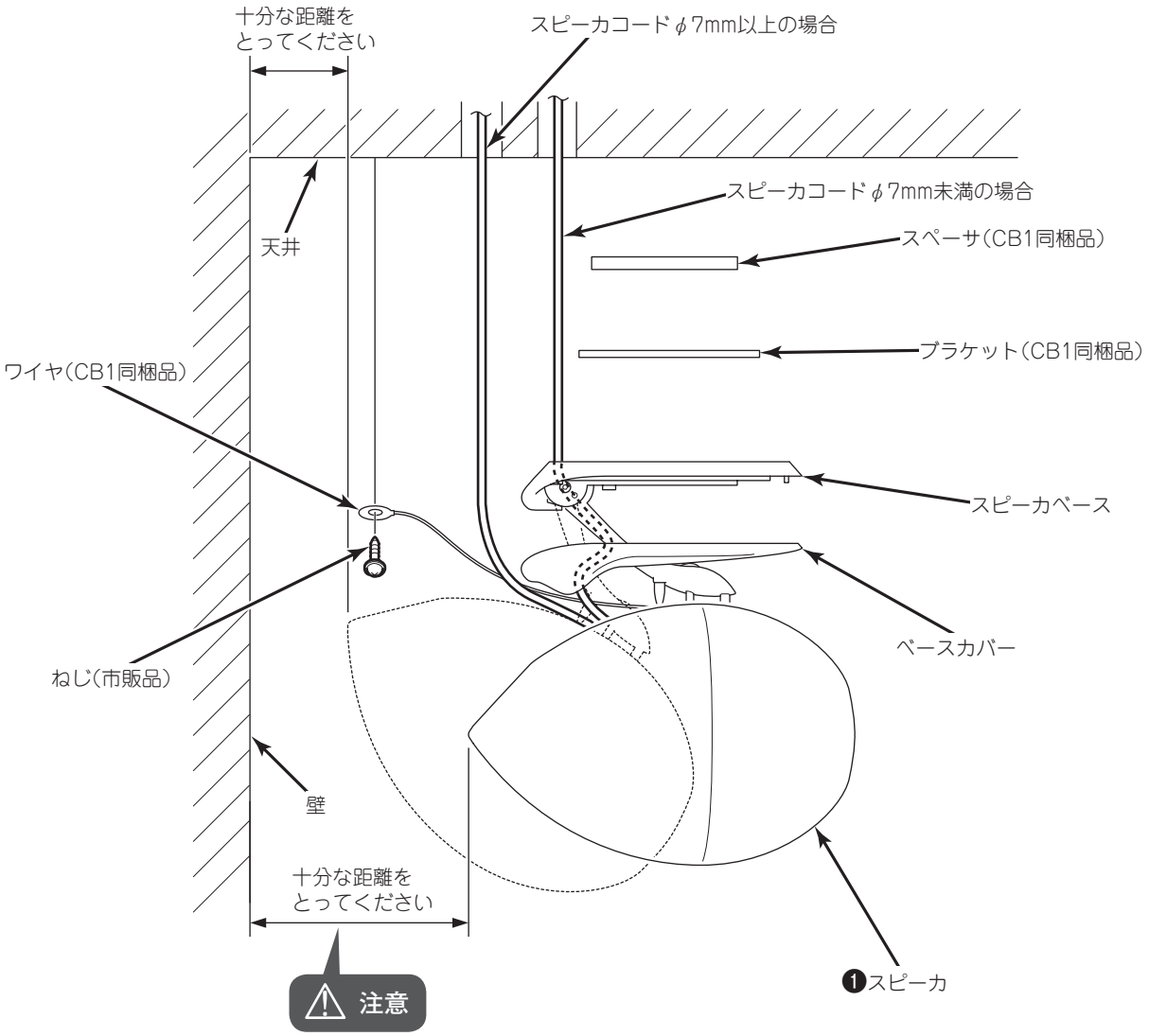


天井や壁に取り付ける場合 （別売のブラケット(CB1)が必要）

本製品は、天井や壁に取り付けることができます。天井や壁に取り付ける際は、別途ねじ(市販品)を準備してください。取り付ける際は、必ず落下防止用のワイヤ(CB1同梱品)を取り付けてください。

⚠注意

- ●取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- ●指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- ●天井や壁にスピーカを取り付けるには、専門技術と経験が必要です。必ず専門業者へ取り付けを依頼してください。
- ●スピーカの取り付け作業は、必ず２人以上で行ってください。
- ●本製品にはスピーカおよびワイヤ(CB1同梱品)を天井に固定する為の取付固定用ねじは、付属しておりません。

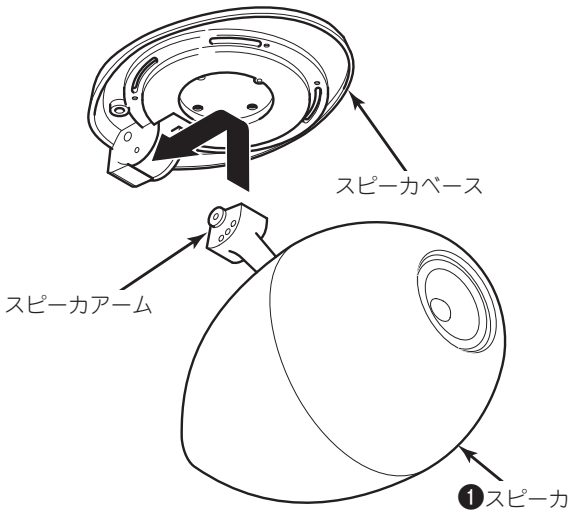


⚠注意

スピーカが天井や壁などに接触しないよう、十分な距離をあけてください。

－天井に取り付ける場合(取付例)－

■ スピーカアーム標準タイプ



1 取付場所に適したスピーカ取付角度に応じて、スピーカアームの取付方法を選択する。

アドバイス

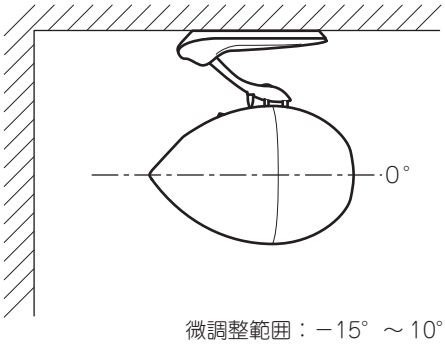
- ●スピーカアームの向きと取付穴の組み合わせで、取付角度を大きく変えることができます。
- ●P.12 ～ 13に記載されたスピーカ角度の取付例を参考にしてください。
- ●取付穴の位置(刻印)は、スピーカとスピーカアームを組み付ける際に必要になります。詳しくは、P.20の「スピーカの組み付け方法」を参照してください。

2 スピーカを天井に取り付ける。

アドバイス

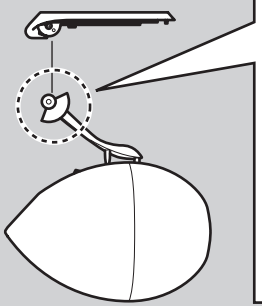
取り付ける手順はP.15～21を参照してください。

スピーカ角度0°の場合

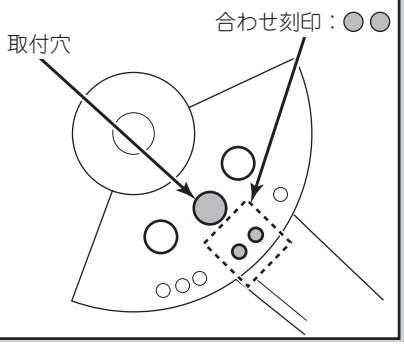


微調整範囲：－15° ～ 10°
(➡P.6を参照)

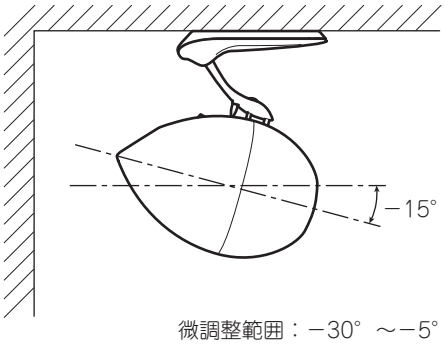
スピーカアーム向き：標準



取付穴：● 刻印側(刻印：●●)

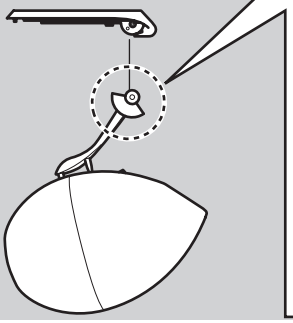


スピーカ角度－15°の場合

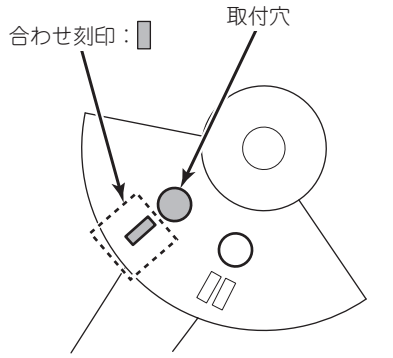


微調整範囲：－30° ～－5°
(➡P.6を参照)

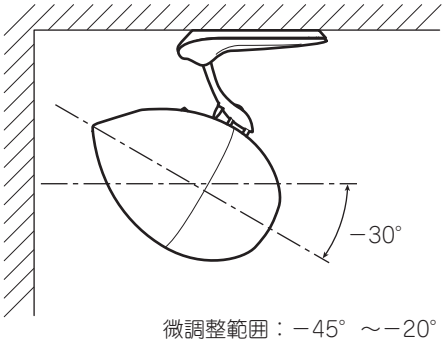
スピーカアーム向き：標準



取付穴：▮ 刻印側(刻印：▮)

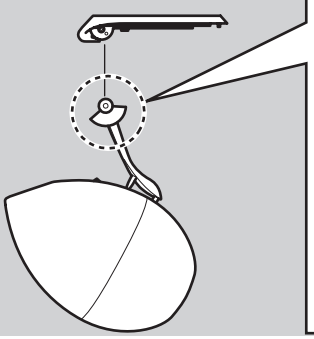


スピーカ角度－30°の場合

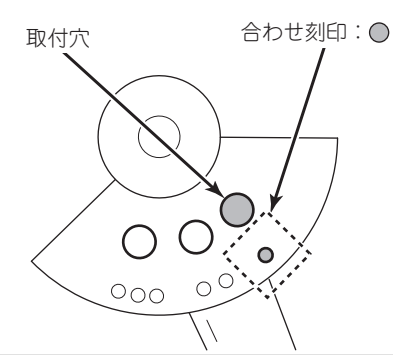


微調整範囲：－45° ～－20°
(➡P.6を参照)

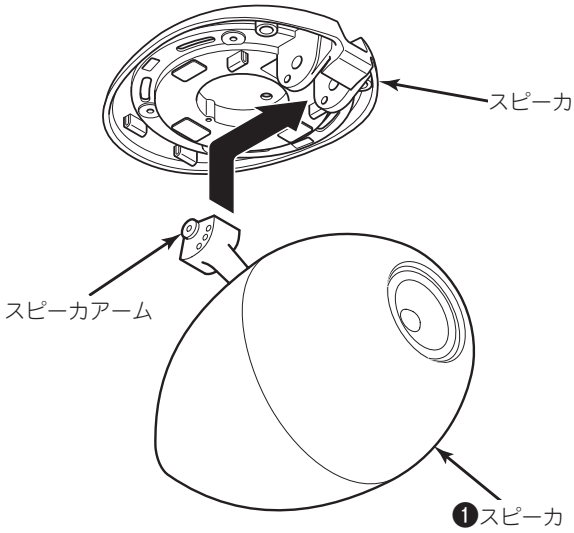
スピーカアーム向き：標準



取付穴：● 刻印側(刻印：●)



■ スピーカアーム逆向きタイプ



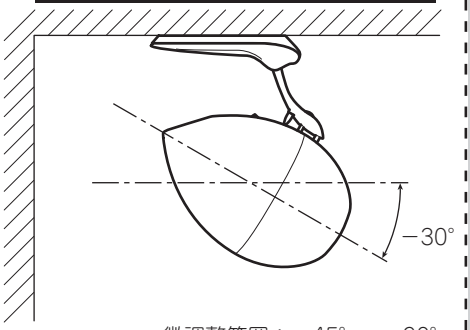
⚠注意

スピーカアームの可動部で手や指をはさまないように注意してください。

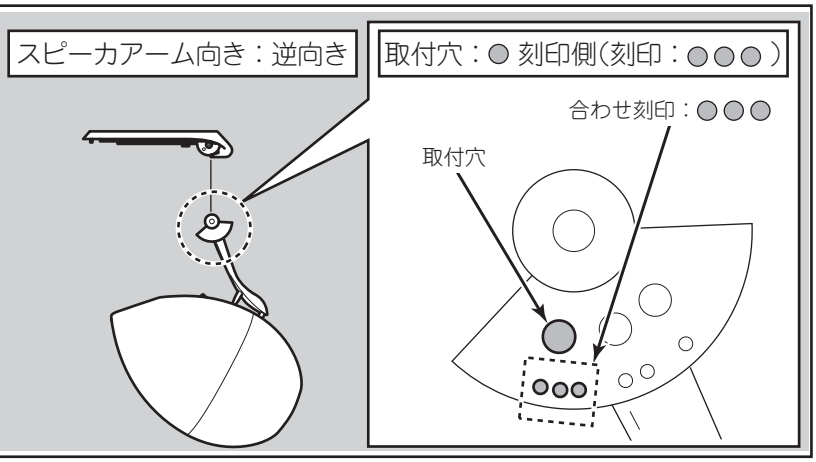
アドバイス

取付穴の位置(刻印)は、スピーカとスピーカアームを組み付ける際に必要になります。詳しくは、P.20の「スピーカの組み付け方法」を参照してください。

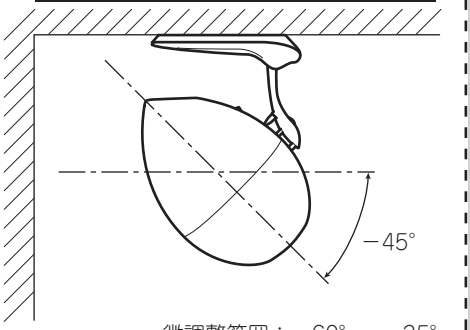
スピーカ角度−30°の場合



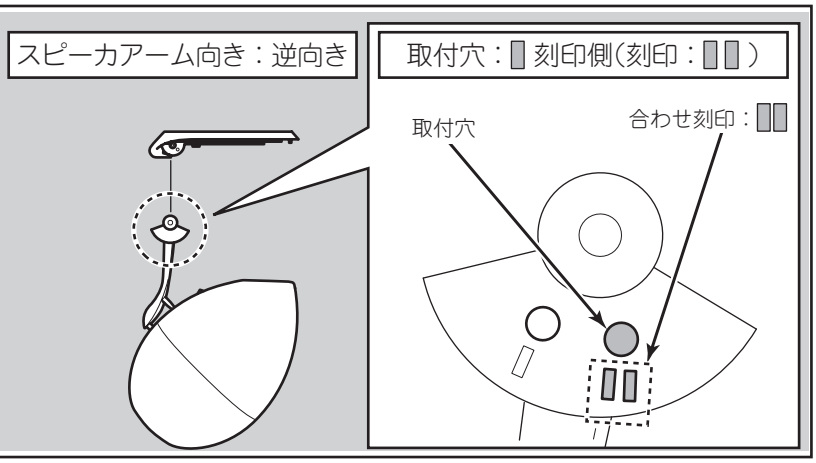
微調整範囲：−45°～−20°
(➡P.6を参照)



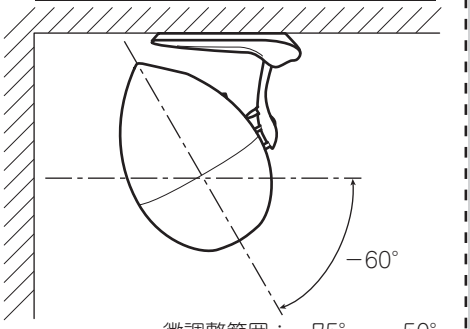
スピーカ角度−45°の場合



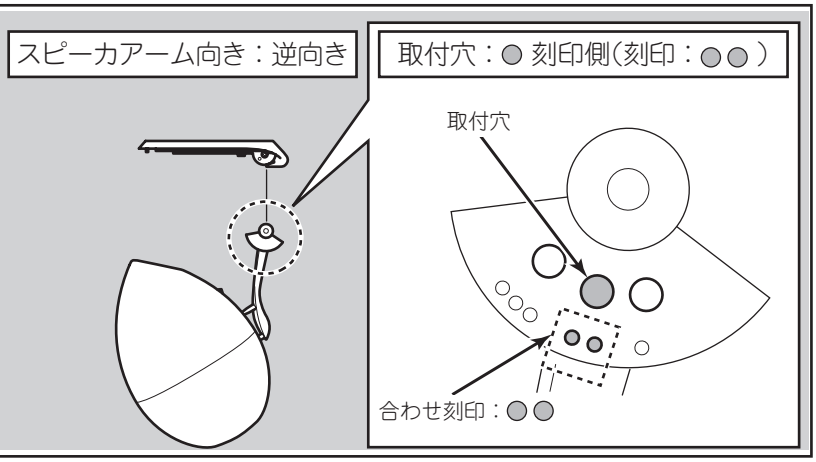
微調整範囲：−60°～−35°
(➡P.6を参照)



スピーカ角度−60°の場合

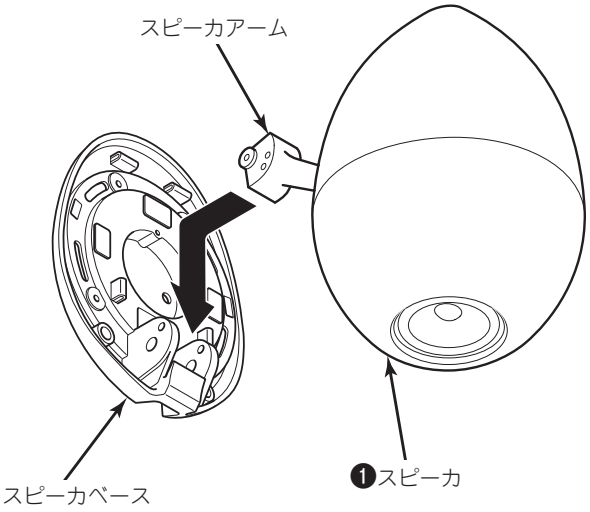


微調整範囲：−75°～−50°
(➡P.6を参照)



－壁に取り付ける場合(取付例)－

TD508MK3の場合



⚠注意

壁に取り付け可能なのはTD508MK3だけです。
TD510MK2は壁に取り付けることはできません。

1 取付場所に適したスピーカ取付角度に応じて、スピーカアームの取付方法を選択する。

アドバイス

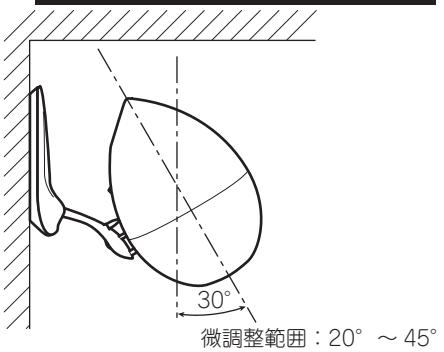
●壁に取り付ける場合は、スピーカアームの向きは逆向きになります。
●取付穴の位置(刻印)は、スピーカベースとスピーカアームを組み付ける際に必要になります。詳しくは、P.20の「スピーカの組み付け方法」を参照してください。

2 スピーカを壁に取り付ける。

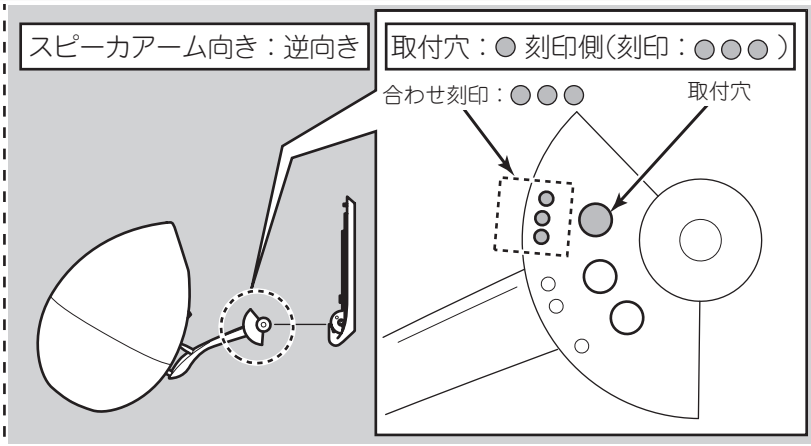
アドバイス

取り付ける手順はP.15～21を参照してください。

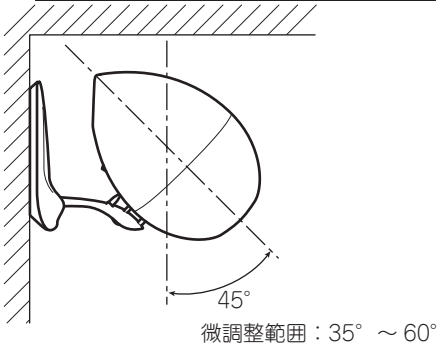
スピーカ角度30° の場合



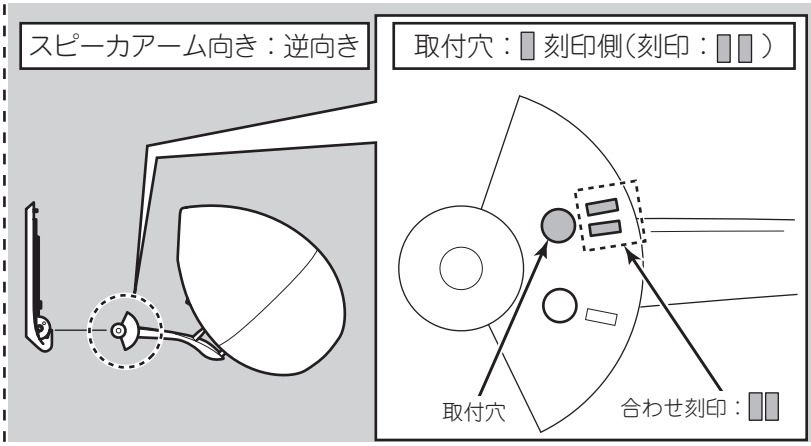
微調整範囲：20° ～ 45°
(➡P.6を参照)



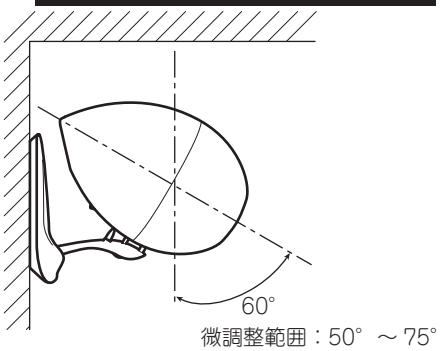
スピーカ角度45° の場合



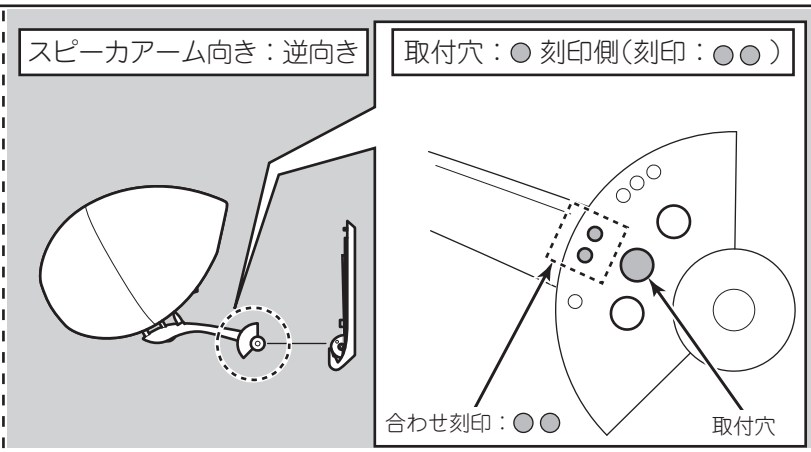
微調整範囲：35° ～ 60°
(➡P.6を参照)



スピーカ角度60° の場合



微調整範囲：50° ～ 75°
(➡P.6を参照)



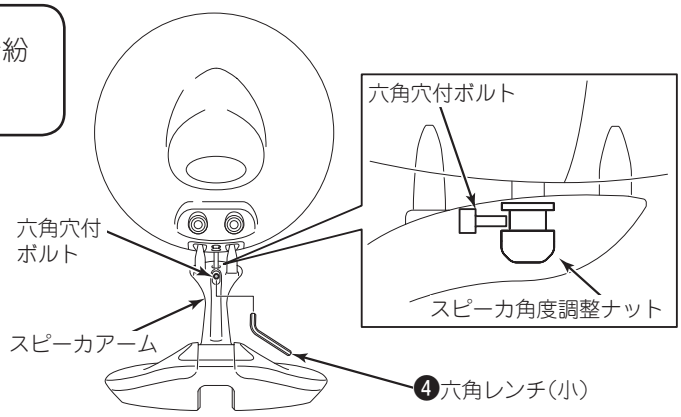
－取り付けの準備－

1 スピーカアームの六角穴付ボルトを取り外す。

アドバイス

取り外した六角穴付ボルトは、再使用するので紛失しないように注意してください。

スピーカ背面図



2 床にやわらかい布などを敷く。

⚠注意

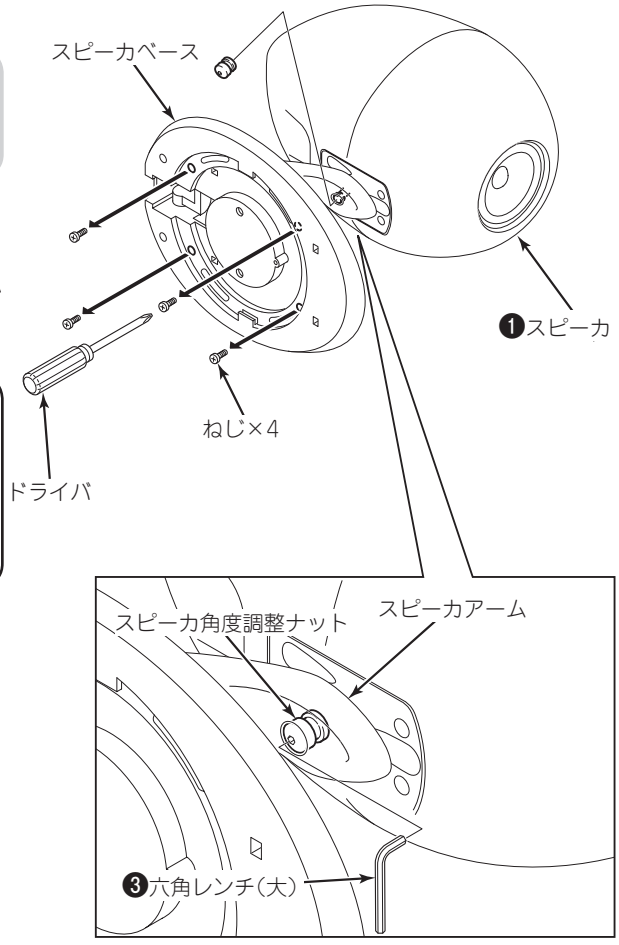
スピーカを傷つけないように、やわらかい布などを敷いた上で作業を行ってください。

3 スピーカを寝かせる。

4 スピーカベース底面のねじおよびスピーカアームのスピーカ角度調整ナットを取り外す。

アドバイス

- ●取り外したスピーカ角度調整ナットは、再使用するので紛失しないように注意してください。
- ●取り外したねじは、使用しません。お客様で保管してください。



5 スピーカを立てる。

⚠注意

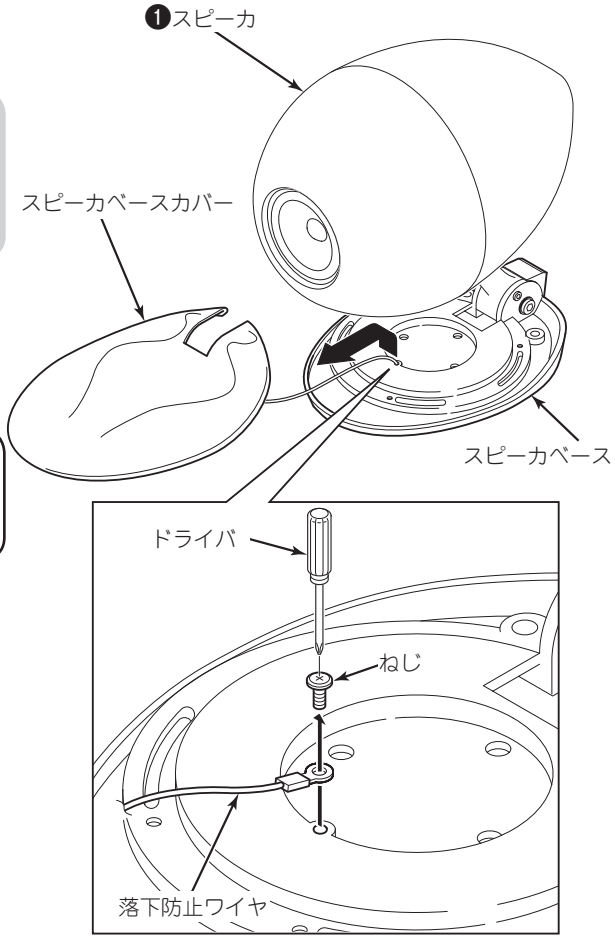
スピーカを立てる際、スピーカを持って立てるとスピーカが外れる恐れがありますので注意してください。

6 ベースカバーを取り外す。

7 スピーカベースから落下防止ワイヤを取り外す。

アドバイス

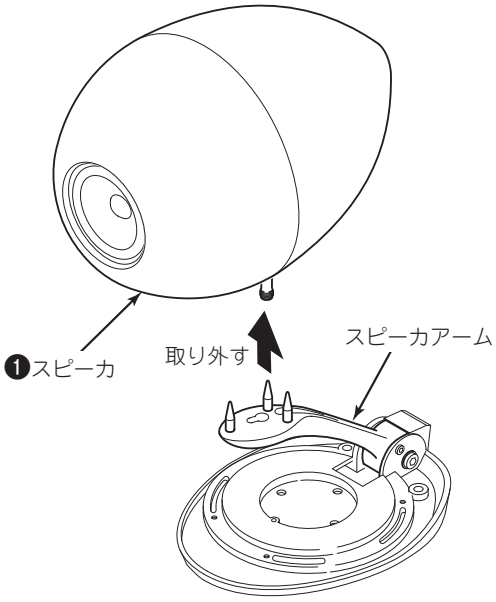
取り外したねじは、再使用するので紛失しないように注意してください。



8 スピーカを持ち上げて、スピーカアームから取り外す。

⚠注意

- ●スピーカは重いので、両手で持って取り外してください。
- ●スピーカを取り外した後、スピーカが転がらないよう、ぶ厚い布などの上に置いてください。



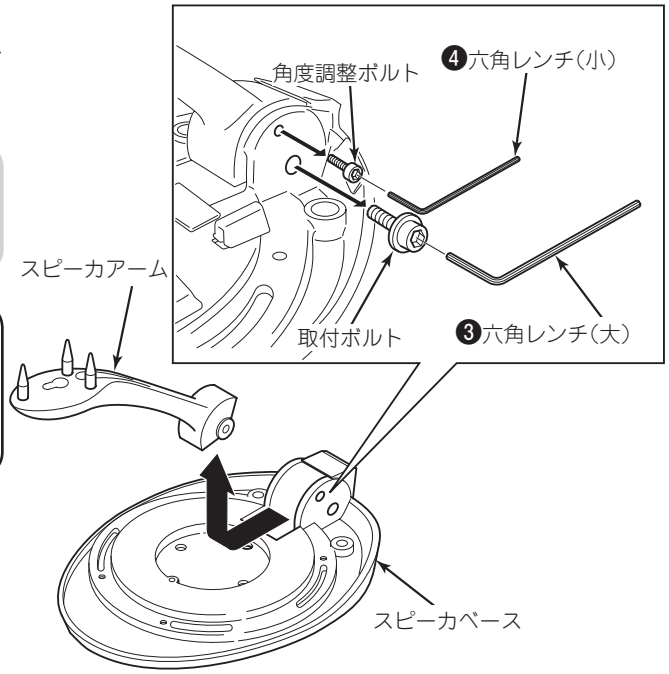
9 取付ボルトおよび角度調整ボルトを取り外し、スピーカアームをスピーカベースから取り外す。

⚠注意

スピーカアームの可動部で手や指をはさまないように注意してください。

アドバイス

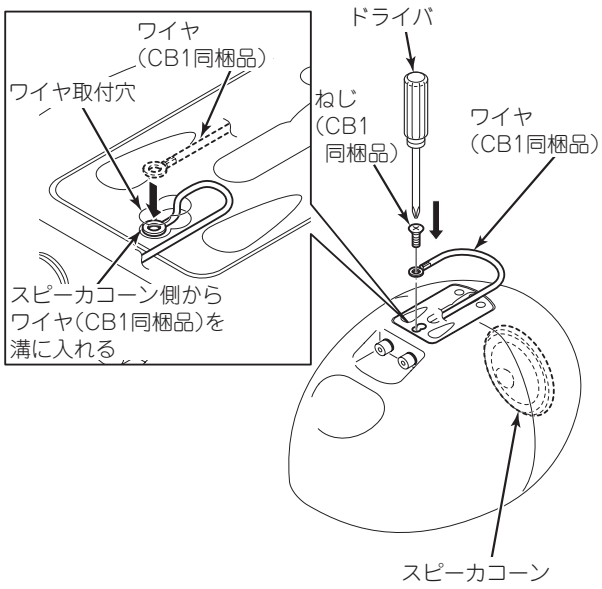
取り外した取付ボルト、および角度調整ボルトは再使用するので紛失しないように注意してください。



10 スピーカ底面にワイヤ(CB1同梱品)を取り付ける。

⚠注意

- ●スピーカコーン側からワイヤ(CB1同梱品)をワイヤ取付穴に入れてください。
- ●TD508MK3の場合は、ねじ(バインド M5×8)(CB1同梱品)を使用してください。
- ●TD510MK2の場合は、ねじ(バインド M4×8)(CB1同梱品)を使用してください。
  ねじ取付穴を間違えないよう注意して下さい。
- ●スピーカ落下防止の為、ワイヤ(CB1同梱品)をスピーカへ確実に固定してください。
- ●スピーカを傷つけないように、やわらかい布などを敷いた上で作業を行ってください。

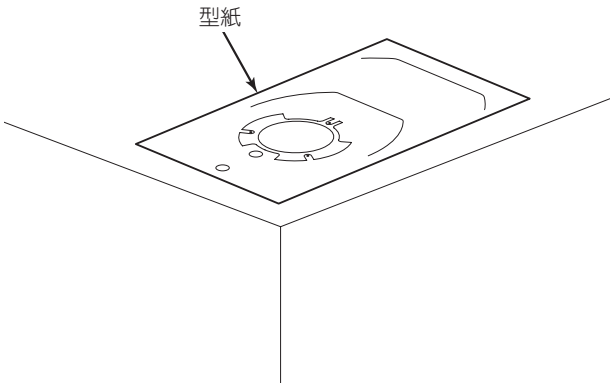


－ブラケットの取り付け方法－

アドバイス

図は、天井に取り付ける場合を示していますが、壁に取り付ける場合も同様に作業を行ってください。

1 屋内の天井に巻末の型紙を使って、スピーカ取付位置を決め、型紙を天井にテープ等を使って貼り付ける。



アドバイス

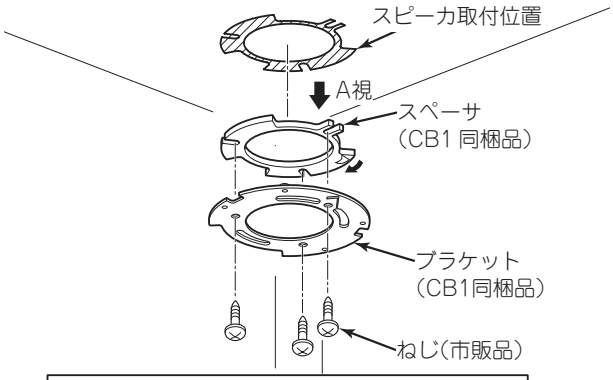
型紙は、はさみ等で切り取って使用してください。

2 ブラケット取付穴の位置を天井に千枚通しなどを使ってマーキングする。

3 天井から型紙を取り外す。

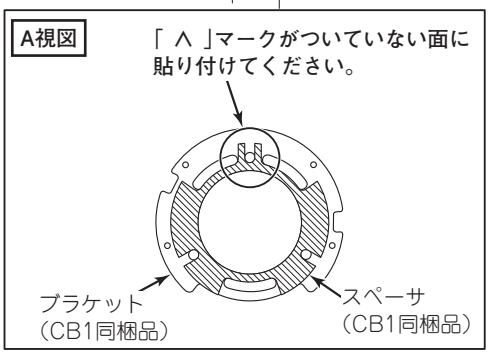
4 スペーサの両面テープのハクリ紙をはがし、スペーサをブラケット(CB1同梱品)に貼り付ける。

5 スピーカ取付位置にブラケット(CB1同梱品)をねじ(市販品)で取り付ける。



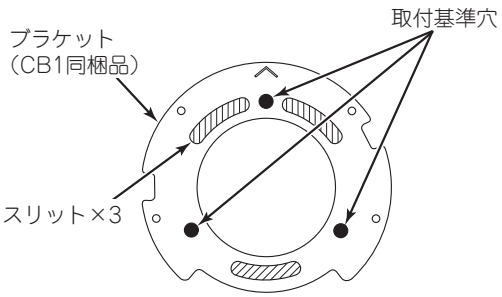
⚠注意

- ●スピーカ落下防止の為、ブラケット(CB1同梱品)を確実に取り付けてください。
- ●天井や壁に取り付けるためのねじは付属しておりませんので別途ご用意ください。
- ●ブラケット(CB1同梱品)をねじで天井や壁に固定する際、ねじをしめすぎるとブラケット(CB1同梱品)が歪み、スピーカが取り付かなくなる恐れがあります。ねじをしめすぎないように注意してください。



アドバイス

- ●天井や壁へブラケット(CB1同梱品)を取り付ける際、天井や壁の強度、梁の位置や有無に応じて取付ボルトの位置、本数を調整してください。
- ●取付基準穴で取り付けても、取付強度が不足する場合は、取付強度を上げるため▨部のスリットを使用してねじ(市販品)止めしてください。



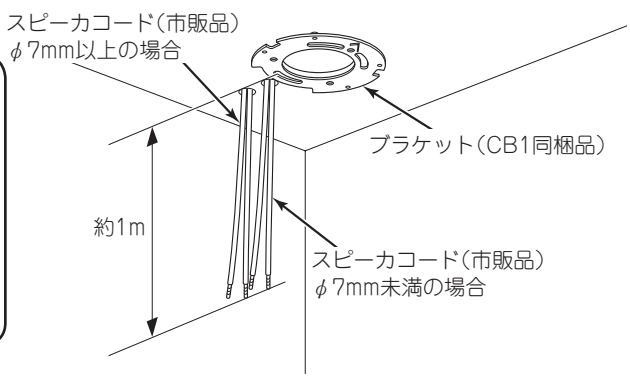
6 スピーカコード(市販品)を配線する。

アドバイス

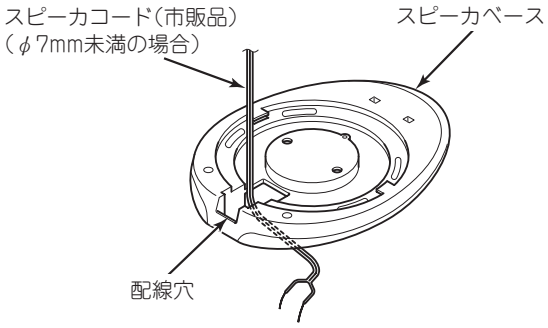
- ●スピーカにスピーカコード(市販品)を接続しやすくするため、スピーカコード(市販品)に1m程度の余裕を持たせて配線してください。

■ スピーカコードがφ7mm未満の場合

スピーカコード(市販品)は、ブラケット(CB1同梱品)の中に通すと見映えがよくなります。



7 スピーカコード(市販品)を配線する。



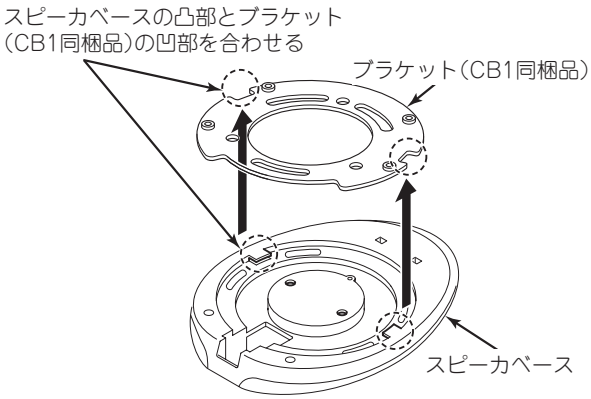
アドバイス

■ スピーカコードがφ7mm未満の場合

スピーカコードは、スピーカベースの配線穴に通すと見映えがよくなります。

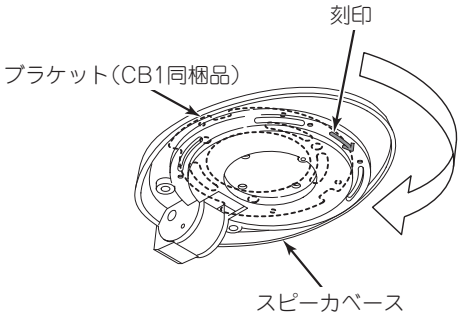
8 スピーカベースの凸部をブラケット(CB1同梱品)の凹部に合わせる。

9 スピーカベースを回し、ブラケット(CB1同梱品)にスピーカベースの凸部を引っ掛けて固定する。



⚠注意

- ●スピーカベースの凸部とブラケット(CB1同梱品)の凹部の位置を合わせて、スピーカベースを確実にブラケット(CB1同梱品)に引っ掛けてください。スピーカベースとブラケット(CB1同梱品)の引っ掛りが不十分な場合、スピーカベースが落下し、危険です。
- ●スピーカコード(別売)がスピーカベース、ブラケット(CB1同梱品)および天井に噛み込まないように注意してください。



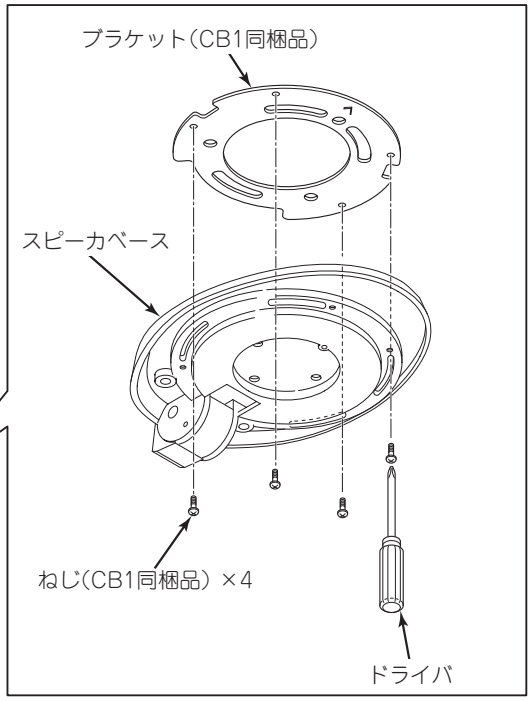
アドバイス

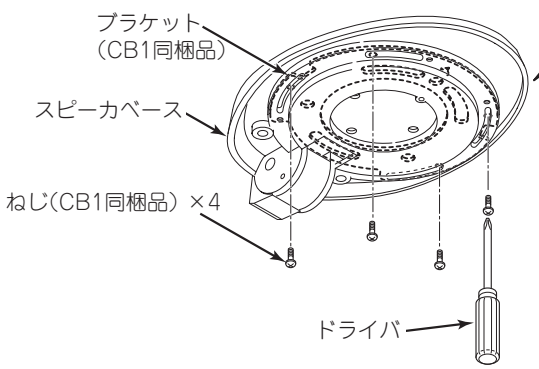
スピーカベースをブラケット(CB1同梱品)に固定する際、スピーカベースに刻印されている矢印の方向にスピーカベースを回して固定してください。図は、TD508MK3です。

10 ブラケット(CB1同梱品)にスピーカベースを確実に取り付ける。

⚠注意

- ●スピーカベースは、ねじをゆるめて、スピーカベースの向きを左右10°ずつ調整できます。
- ●スピーカベースの向きを調整する際、スピーカベースが落下する恐れがありますので、ねじを決して取り外さないでください。





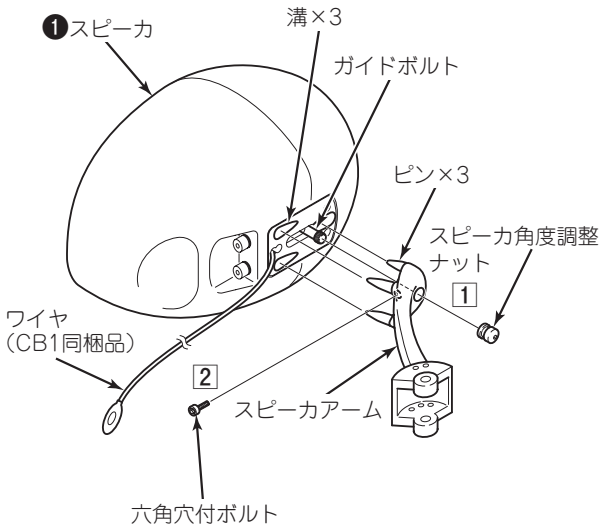
－スピーカの組み付け方法－

1 スピーカのガイドボルトをスピーカアームの穴に挿し込み、スピーカ角度調整ナットでしめつける。

アドバイス

ガイドボルトをスピーカアームの穴へ挿し、各溝へ3本のピンを合わせてください。

2 スピーカアームに六角穴付ボルトをしめつける。



3 スピーカアームをスピーカベースに組み付ける。

⚠注意

スピーカアームの可動部で手や指をはさまないように注意してください。

アドバイス

- ●スピーカアームを取り付ける際、スピーカの角度調整をしてください。
- ●スピーカの角度調整をする際、刻印の合わせ位置はP.12 ～ 14を参照してください。

4 取付ボルトおよび角度調整ボルトをしめつける。

⚠注意

スピーカアームの可動部で手や指をはさまないように注意してください。

アドバイス

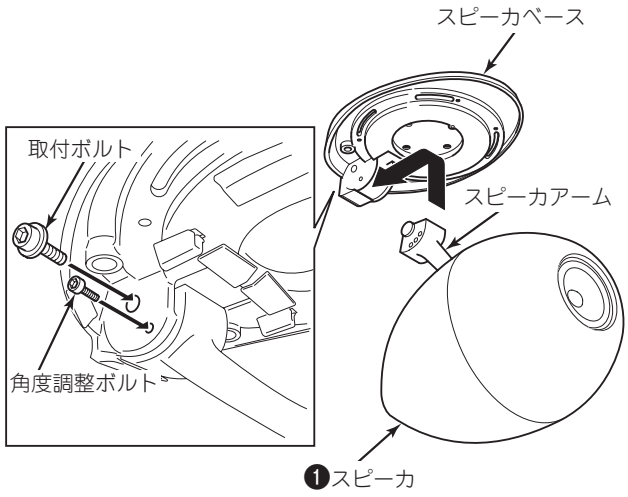
取付ボルトおよび角度調整ボルトは確実にしめつけてください。

5 スピーカ角度の微調整をする。

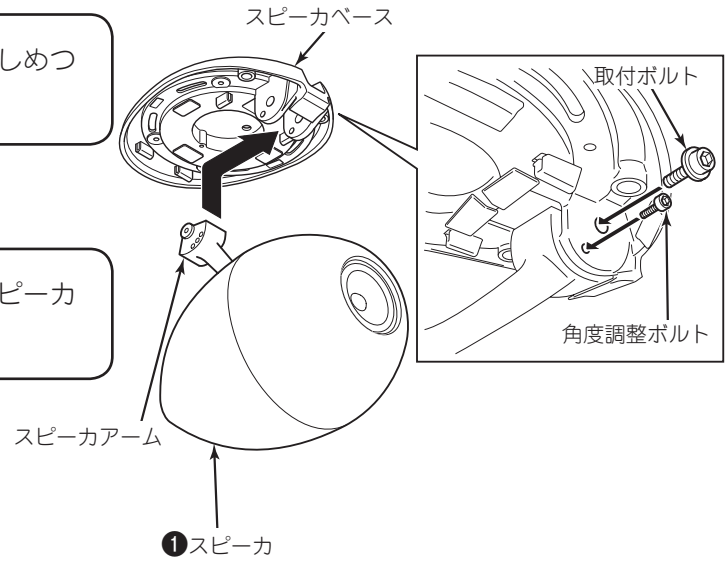
アドバイス

スピーカ角度の微調整についてはP.6の「スピーカ角度の微調整」を参照してください。

■ スピーカアームを標準の向きでスピーカベースに取り付ける場合



■ スピーカアームを逆向きでスピーカベースに取り付ける場合



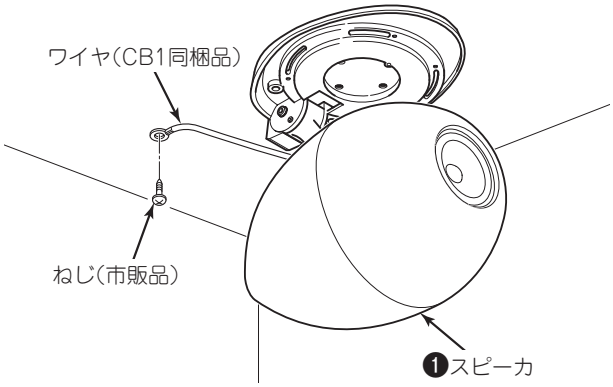
6 ワイヤ(CB1同梱品)を天井に取り付ける。

⚠注意

スピーカ落下防止の為、ワイヤ(CB1同梱品)を天井へ確実に固定してください。

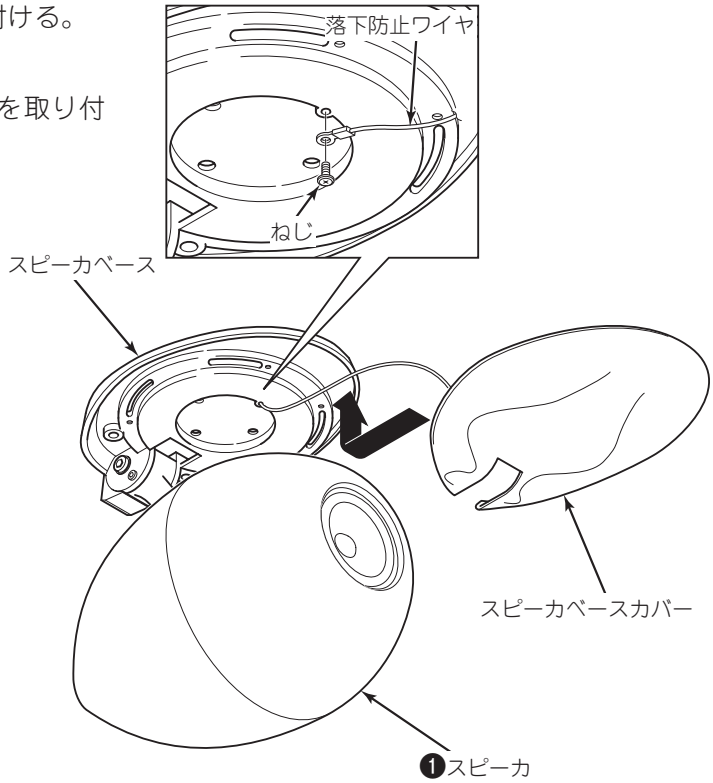
アドバイス

ワイヤ(CB1同梱品)は、届く範囲内で天井の梁などの強度がある位置に取り付けてください。



7 スピーカベースに落下防止ワイヤを取り付ける。

8 スピーカベースにスピーカベースカバーを取り付ける。



お手入れ／仕様

■ お手入れ

お手入れする前には、必ず接続機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
この製品の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどいときは、水にひたした布をよくしぼって拭き取り、乾いた布で仕上げてください。

この製品を、ベンジンやシンナー系の液体で拭かないでください。
キャビネット表面を傷める原因となります。

■ 動作に異常が起きたとき

この製品を使用中に、強い外来ノイズ(過大な衝撃、静電気、落雷による電源電圧の異常等)を受けた場合、または誤った操作をした場合に、正しい動作をしなくなるなどの現象が発生することがあります。

そのようなときは、アンプ側のPOWER（電源)ボタンを一度、「切」にしてください。
再び電源を入れ、正常な動作に戻ることを確認してください。
(引き続き異常が発生する場合は、当社窓口へご連絡ください。)

■ WEEE指令に関するお知らせ

本品はWEEE指令(2002/96/EC)により、EU加盟国では一般廃棄物として廃棄してはいけない製品として右図のラベル表示を義務付けられている製品です。
WEEE : Waste Electrical and Electronic Equipment.（廃電気電子機器）
本品をEU加盟国内で廃棄する場合には、特定の流通業者に返還するなど
その国の法律に基づき適切に処分してください。
WEEEは有害物質の含有により環境および人体への影響が考えられますが、
適切に処分いただくことによりこれらの影響を排除することができ、
再利用・リサイクル・その他の再生に役立てることができます。

■ 仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

●TD508MK3
口径　　：φ8cm
防磁　　：防磁設計(JEITA)
許容入力　：定格15W／最大30W
インピーダンス：8Ω
外形寸法　：W180×D268×H289（㎜）
質量　　：約3.5kg

●TD510MK2
口径　　：φ10cm
防磁　　：防磁設計(JEITA)
許容入力　：定格25W／最大50W
インピーダンス：6Ω
外形寸法　：W255×D381×H391（㎜）
質量　　：約9.5kg

保証とアフターサービス

■ 保証書（別添）

保証書は内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

保証期間

お買いあげの日から１年間です。
保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。

■ 補修用性能部品の最低保有期間

この商品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後８年です。
この期間は、通商産業省の指導によるものです。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理及びご不明な点に関するご相談は

下記「富士通テン株式会社　ECLIPSE TDインフォメーション」にお問い合わせください。

富士通テン株式会社
ECLIPSE TDインフォメーション
フリーダイヤル：0120-02-7755
受付時間：午前10：00 ～ 12：00
　　午後 1 ：00 ～ 5 ：00
　　（土・日・祝祭日・弊社休業日を除く）
電子メールアドレス：TD-info@tm.ten.fujitsu.com

■ 修理を依頼されるときは

保証期間中

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理して使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

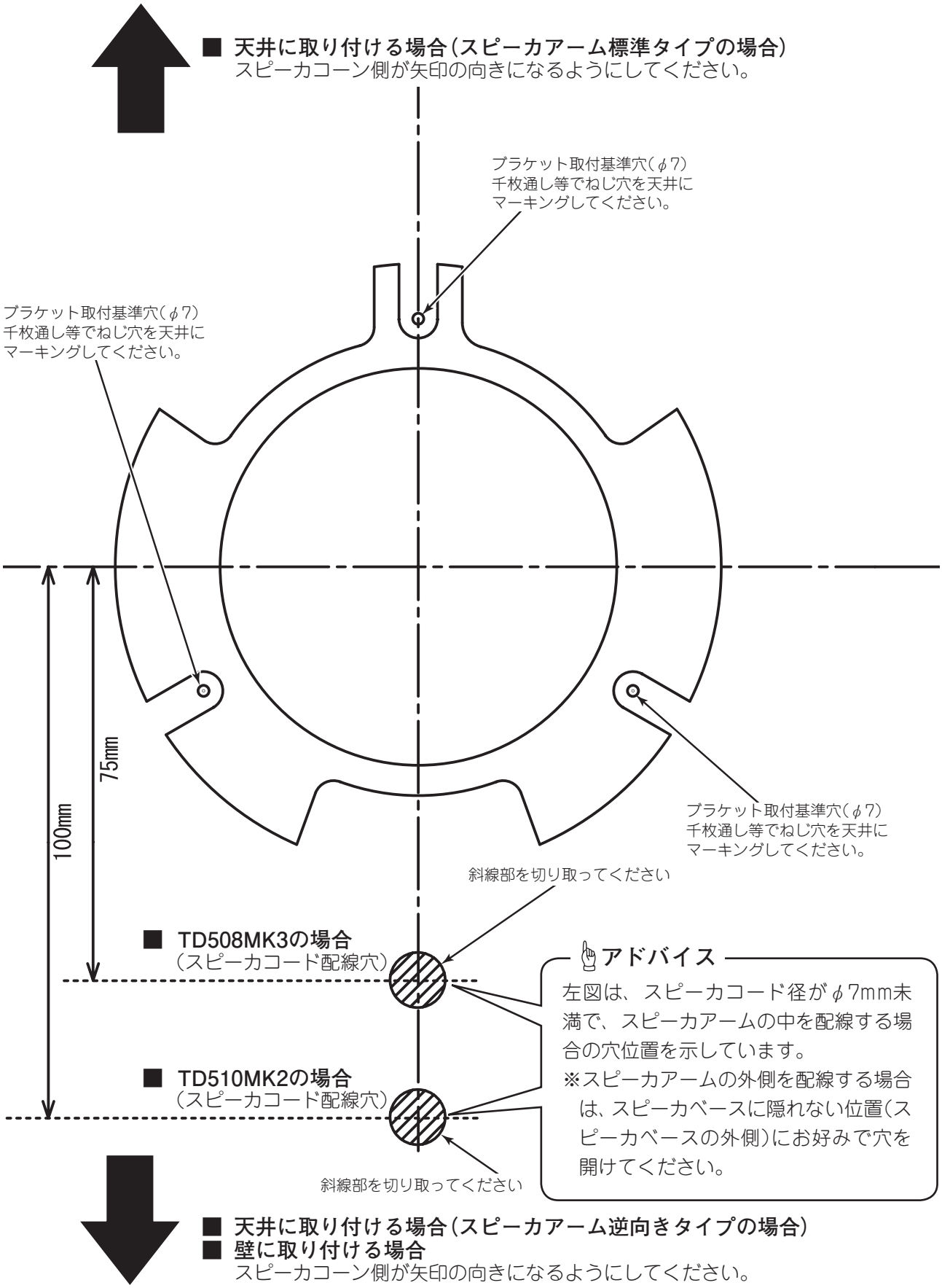
	長年ご使用のオーディオ機器の点検を！	
愛情点検	このような症状はありませんか？	●電源コードやプラグが異常に熱い ●コゲくさい臭いがする ●電源コードに深いキズや変形がある ●その他の異常や故障がある

ご使用中止
故障や事故防止のため、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いて、必ず点検をご依頼ください。なお、点検・修理に要する費用は、当社窓口にご相談ください。

－ブラケット取付位置決め用型紙－

アドバイス

スピーカアームを取り付ける向きによって、スピーカの方向が異なります。向きをよく確認してから穴を開けてください。



アドバイス

左図は、スピーカコード径がφ7mm未満で、スピーカアームの中を配線する場合の穴位置を示しています。

※スピーカアームの外側を配線する場合は、スピーカベースに隠れない位置（スピーカベースの外側）にお好みで穴を開けてください。